

～次代を担う力を持った人間の育成～



恩方中だより

ホームページ <http://hachioji-school.ed.jp/ongtj/>

八王子市立恩方中学校

令和8年9月11日発行

第5号

校長 植田 恭正

「自分で考え、判断する」ということ



二学期が始まって、早くも三週間が過ぎました。学校には生徒たちの元気な声が戻り、現在、全体としては落ち着いた学校生活が送られています。夏休み中も大きな事件や事故なく過ごすことができ、こうして二学期の教育活動を進められていることを、保護者の皆様、地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

一方で、日々の学校生活に目を向けると、生徒同士のちょっとした行き違いや、言葉の受け止め方の違いなど、小さなトラブルが見られることもあります。成長の過程にある中学生にとって、友人との関わりの中で悩んだり、失敗したりすることは決して特別なことではありません。大切なのは、そうした経験から何を学び、次の行動に生かすかということです。

学校生活において、特に大切にしてほしいことがあります。それは、「今、自分は何をすべきなのか」「これは、やってよいことなのか、やってはいけないことなのか」を、自分自身で考え、判断することです。

その場の雰囲気流されたり、友達がしているから自分もしてよいと考えたりするのはではなく、一度立ち止まって考える。相手はどう感じるだろうか、この行動は

自分や周囲にどのような影響を与えるだろうかと考える。その積み重ねが、社会の中で責任をもって行動する力につながっていきます。

そして、もう一つ大切にしてほしいのが、先生や保護者、地域の方々からの助言を素直な気持ちで受け止めることです。注意されたときに、まず「なぜ注意されたのだろう」と考えてみる。自分では気付かなかったことを教えてもらったのかもしれない。人からの助言を素直に受け止め、自分自身を振り返ることのできる人は、必ず成長していきます。

十月には体育祭を予定しています。現在、各学年で準備や練習が進められています。今年度も昨年度と同様に、三つのチームに分かれて競技や活動を行います。また、応援団も活動し、体育祭を盛り上げていくことになります。生徒たちがどのような姿を見せてくれるのか、今から大変楽しみにしています。

体育祭は、競技の勝敗だけを競う場ではありません。仲間と力を合わせ、一つの目標に向かって努力する中で、責任感や協調性、そして互いを認め合う心を育てる大切な機会です。一人一人が自分の役割を果たし、仲間の頑張りを認め、励まし合うことで、学校全体として大きな力が生まれます。

二学期は、これから多くの活動が続きます。一つ一つの経験を自分自身の成長につなげ、「自分で考え、判断し、行動する」ことを大切にしながら、充実した学校生活を送ってほしいと願っています。

保護者の皆様、地域の皆様には、引き続き生徒たちの成長を温かく見守り、御支援いただきますようお願い申し上げます。





それぞれの学年の1学期締めくくりの様子

□1年生

一学期最後の思い出づくりとして、学年レクリエーションを実施しました。

今回のレクは、生徒の自治的な活動を大切にすることを目的に、学級委員が中心となって企画・運営を担当しました。さらに、二学期に開催される体育祭に向けて、体育祭実行委員も運営をサポートし、生徒同士が協力しながら活動を進める姿が見られました。

最初に行われた「イントロクイズ」では、学級委員が事前に選曲したさまざま

なジャンルの音楽のイントロが流れ、分かった生徒が元気よく手を挙げて答えました。会場からは「知ってる!」「惜しい!」といった歓声が次々と上がり、正解が発表されるたびに大きな拍手と笑顔が広がりました。

友達同士で楽しみながら参加する姿が印象的で、会場全体が一体感に包まれました。続いて行われた「オクトパスレース」では、4～5人が背中合わせになって腕を組み、一つのチームとなってゴールを目指しました。息を合わせなければ前へ進むことができない競技だけに、「せーの!」「右、右!」と声を掛け合いながら協力する姿があちこちで見られました。男女別で行われたレースは白熱し、転びそうになっても仲間同士で支え合いながら最後まで走り切る姿に、会場は大きな声援と笑いに包まれました。

今回の学年レクリエーションは、仲間と協力することの楽しさや、お互いを思いやる気持ちを改めて感じられる時間となりました。そして、体育祭実行委員にとっても、企画や運営を経験する貴重な機会となり、二学期の体育祭へ向けた大きな一歩となりました。笑顔あふれる時間の中で、一学期を締めくくる素敵な思い出がまた一つ増えました。この日の経験を力に変え、二学期も学年全員で力を合わせ、さらに大きく成長していくことを期待しています。

□2年生

一学期の終業式を前に、2年生では各学級の学級委員が中心となって企画・運営する学級レクリエーションを行いました。

生徒たち自身が内容を考え、仲間が楽しめる時間をつくろうと準備を進め、一学期の締めくくりにふさわしい温かな時間となりました。

1組では「目隠し鬼ごっこ」を実施しました。声を掛け合いながら仲間を助けたり、逃げたりする中で、



教室や体育館には笑い声が絶えず、互いを思いやりながら活動する姿が見られました。

2組では「以心伝心ゲーム」と「爆弾ゲーム」を楽しみました。以心伝心ゲームでは、友達との息を合わせながら答えを導き出し、互いの考えを知る良い機会となりました。また、音楽が止まった瞬間に爆弾を持っていた人がアウトとなる爆弾ゲームでは、音楽が止まるたびに歓声が上がり、教室は大いに盛り上がりました。



どちらの学級も、学級委員が中心となって仲間をまとめ、一人一人が笑顔で参加できる雰囲気づくりに努めていました。一学期の最後にクラスの絆をさらに深めることができたこの経験を、二学期の学校生活や体育祭などの行事にも生かし、さらに団結した学年へと成長していくことを期待しています。

口3年生

3年生は、一学期最後の学年集会を行いました。はじめに矢澤学年主任から、一学期を振り返るとともに、高校受験に向けて大きな意味を持つ夏休みの過ごし方について話がありました。「夏休みは受験の天王山です。一日一日の積み重ねが、これからの進路を大きく左右します。自分の目標をしっかりと見据え、計画的に学習へ取り組みましょう」と、生徒たちへ力強いエールが送られました。真剣な表情で話に耳を傾ける生徒たちからは、最高学年としての自覚と、進路実現に向けた決意が感じられました。



集会後は、仲間との思い出づくりとして全員でバレーボールを楽しみました。コートでは「ナイス!」「ドンマイ!」と自然に声を掛け合い、笑顔と歓声が体育館いっぱいに広がりました。受験を控えた3年生にとって、仲間と過ごす何気ない時間の大切さを改めて感じるひとときとなりました。一学期の努力を自信に変え、仲間との絆を力にして迎える夏休み。学習と休養のバランスを大切にしながら、一人一人が目標に向かって充実した日々を送り、二学期にはさらに成長した姿で再会できることを期待しています。

【女子ソフトテニス部】「ありがとう」があふれた最後の日

— 3年間の軌跡は、未来への贈り物 —

試合終了の瞬間、コートには静かな時間が流れました。勝者をたたえる拍手の中、恩方中学校の選手たちは互いの肩を抱き、涙を流しました。その涙は、関東大会への夢が途絶えた悔しさだけではなく、

3年間、仲間とともに走り続けた時間が終わったことを知った涙でした。

保護者席では、ラケットを握り始めたばかりの小さな背中を思い出していた方もいたことでしょう。転んでは立ち上がり、負けては悔し涙を流し、それでも「次こそ勝ちたい」と前を向き続けた我が子。その姿を誰より近くで見守り続けてきた3年間でした。朝早くのお弁当づくり。遠征への送り迎え。泥や砂で汚れたユニフォームを何度も洗い、「頑張



っておいで」と送り出した日々。その一つ一つは決して目立つものではありません。しかし、その積み重ねこそが、子どもたちが最後まで諦めず戦い抜く力になっていました。

恩方中学校ソフトテニス部は、小山部活動指導員を中心とした地域運営のモデル部活動として歩んできました。タヤけテニスクラブの部活動指導補助員の皆様をはじめ、多くの地域の方々が子どもたちを支え、技術だけでなく、人として大切な礼儀や感謝、仲間を思いやる心を育ててくださいました。だから、この東京都ベスト8という結果は、選手だけのものではありません。地域、学校、指導者、保護者、そのすべての思いが一つになってつかみ取った誇りです。

そして、この大会をもって3年生は引退します。後輩たちは、先輩たちが最後までボールを追いつける姿を忘れないでしょう。「諦めないとはこういうことなんだ」「仲間のために戦うとはこういうことなんだ」と、その背中から多くを学びました。

【男子ソフトテニス部】 最後まで戦い抜いた3年生の誇り

東京都選手権大会男子団体戦に出場した本校男子ソフトテニス部は、初戦を見事に突破し、2回戦では第4シード・深川中学校との対戦に臨みました。

組み合わせでは恩方中学校は新小岩中との初戦を勝ち上がり、シード校との一戦を迎えました。強豪を相手にしても選手たちは一歩も引かず、自分たちの力を信じて堂々とプレーしました。試合は恩方中学校がリードする場面もあり、会場は「もしかしたら」という期待に包まれました。



しかし、あと一本というところで流れを引き寄せられ、惜しくも逆転負け。勝利には届かなかったものの、最後の最後まで仲間を信じ、声を掛け合い、全力でボールを追いつける姿は、多くの人の心を揺さぶりました。この試合をもって3年生は団体戦を終え、卒業へ向けて新たな一歩を踏み出します。勝った試合だけが財産ではありません。苦しい練習、思うように結果が出なかった日々、それでも仲間と励まし合

いながら努力を積み重ねてきた時間こそが、何ものにも代え難い宝物です。この大会で見せた最後まで諦めない姿勢は、後輩たちにしっかりと受け継がれていくことでしょう。これまで選手たちを温かく支えてくださった保護者の皆様、熱心にご指導いただいた顧問・コーチ、そして応援して下さったすべての皆様に心より感謝申し上げます。皆様の支えがあったからこそ、生徒たちは東京都の舞台上で堂々と戦い抜くことができました。あと一本。その悔しさはきっと、3年生一人一人がこれから歩む人生の大きな力になります。恩方中学校ソフトテニス部で仲間と流した汗や涙、そして最後まで諦めずに戦い抜いた誇りは、卒業しても決して色あせることはありません。3年生の皆さん、本当にお疲れさまでした。そして、たくさんの感動をありがとうございました。

【陸上部】東京総体・都大会で健闘 田口さんが棒高跳で7位入賞

7月24日から26日まで、八王子市上柚木公園陸上競技場で開催された「第65回東京都中学校総合体育大会陸上競技大会兼第79回東京都中学校陸上競技選手権大会」に、本校陸上競技部が出場しました。

都内各地区を勝ち抜いた選手たちが集うハイレベルな大会で、2年生の田口柊太さんが共通男子棒高跳で2m40を跳び、見事7位入賞を果たしました。東京都で8位以内に与えられる賞状を手にした堂々たる成績であり、日頃の努力が実を結んだ素晴らしい結果となりました。



また、3年生の塚田愛菜さんは女子走幅跳で予選を突破し、決勝では4m96を記録して10位と健闘しました。あと2cm届けば入賞という惜しい結果でしたが、東京都大会の決勝の舞台上で最後まで力強い跳躍を見せてくれました。さらに女子100mにも出場し全力で走り切りました。

岩本粋さんは女子100mハードル、粕谷圭さんは男子走高跳、西原なずなさんは女子1年800m決勝に出場し、それぞれが持てる力を存分に発揮しました。

陸上競技部のシーズンはまだ続きます。今回の東京都大会で得た経験を大きな自信とし、さらなる記録更新と成長を目指して挑戦を続ける選手たちへ、引き続き温かいご声援をよろしくお願いいたします。

地域と学校が支える学びの3日間 ～学校運営協議会主催「夏休み基礎教室」～

学校運営協議会が主催する「夏休み基礎教室」が、7月27日から29日までの3日間、本校を会場に開催されました。毎日午前9時から11時30分まで実施され、多くの生徒が参加し、それぞれの目標に向かって学習に励みました。

参加者の半数以上は、約半年後に高校入試を



控えた 3 年生でした。受験勉強に真剣に取り組む姿が多く見られましたが、1・2 年生も夏休みの宿題や問題集に集中して取り組み、学年を問わず落ち着いた学習環境が広がっていました。

また、2 学期に実施される英語検定や漢字検定に向けて過去問題に挑戦したり、リスニングの練習に熱心に取り組んだりする生徒の姿も見られ、一人一人が自分の目標を明確に持って学習を進めていました。

この基礎教室では、日頃から放課後基礎教室で学習支援をしてくださっている地域の元教員の皆様をはじめ、教員を志す学生の皆さん、そして本校教職員が力を合わせ、生徒一人一人に寄り添った丁寧な学習支援を行いました。分からないところをすぐに質問できる環境が整えられ、生徒たちは安心して学習を進めることができました。

地域の皆様が学校教育を支えてくださる姿は、学校運営協議会ならではの大きな力であり、本校の特色ある教育活動の一つとなっています。夏休みは、学力を伸ばす絶好の機会です。今回の 3 日間で身に付けた学習習慣を継続し、自信をもって 2 学期を迎えてほしいと思います。

はちおうじっ子サミット ～いじめのない学校・地域を目指して～

八王子市内の中学校生徒会と小学校児童会の代表が集まり、「八王子っ子サミット」が 29 日、八王子市教育センターで開催されました。

本サミットでは、「いじめのない学校生活を実現するために、自分たちに何ができるか」をテーマに、小学生と中学生合わせて約 15 名のグループに分かれ、活発な意見交換を行いました。

それぞれのグループでは、学校生活の課題や日頃感じていることを率直に話し合い、児童・生徒ならではの視点から具体的な取組を考えました。その後、各グループの代表が全体協議で話し合いの内容を発表し、参加者全員でさらに意見を深めました。

恩方中学校の参加グループでは、「挨拶運動」を通して温かな学校づくりを進めるアイデアを提案しました。全校で挨拶に関するアンケートを実施し、その結果をもとに各学級が挨拶への意識を高めながら取り組み、クラスごとに成果を競い合うことで、楽しみながら学校全体に挨拶の輪を広げていこうという内容です。一人一人が気持ちよく挨拶を交わすことが、いじめのない、安心して過ごせる学校づくりにつながるという思いが込められています。

小学生と中学生が学校の枠を越えて交流し、それぞれの考えを尊重しながら意見を交わした今回のサミットは、多くの学びと気づきにあふれた貴重な機会となりました。恩方中学校でも、この学びを生徒会活動へ生かし、誰もが安心して笑顔で過ごせる学校づくりを地域とともに進めてまいります。

※掲載している画像は、本校ホームページに掲載許諾を得ていない小学生や他の中学校生徒への肖像権等に配慮し、AI で作成した当日のイメージ画像です。



恩方カルチャークラブ サマーイベントを実施しました！

恩方カルチャークラブでは、夏休み恒例のサマーイベントとして、磯沼牧場で搾乳体験とバター作りを行いました。

当日は、牧場スタッフの皆さんから牛の飼育や酪農について説明を受けた後、実際に乳牛の搾乳に挑戦しました。初めて牛に触れる参加者も多く、最初は少し緊張した様子でしたが、優しく声を掛けながら搾乳を体験し、命の温もりや酪農の大変さを実感する貴重な時間となりました。



その後は、自分たちで生クリームを振ってバターを作る体験を行いました。少しずつ固まっていく様子が歓声が上がり、できたてのバターのおいしさに笑顔が広がりました。食べ物ができるまでの過程を楽しく学ぶことができ、食への感謝の気持ちも深まったようです。

午前中いっぱい牧場でさまざまな体験を楽しんだ後は、参加者全員でお弁当を囲み、楽しいひとときを過ごしました。午後 1 時に牧場を出発し、午後 1 時 30 分頃に高尾駅へ到着して解散となりました。その後は各自が帰宅となりましたが、保護者の皆様によるお迎えもスムーズに行われ、午後 1 時 50 分には見送りの無事終了しました。

自然に囲まれた牧場での体験を通して、多くの学びと笑顔にあふれた一日となりました。ご協力いただいた磯沼牧場の皆様、そして送迎等にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

小学 5・6 年生対象 部活動体験を開催しました

本校では、7 月 31 日（金）に小学 5・6 年生を対象とした部活動体験を開催し、多くの児童の皆さんにご参加いただきました。今年度はバドミントン部・ソフトテニス部・吹奏楽部で体験を実施し、陸上部は参加希望者がいなかったため体験は実施しませんでした。来校した児童の皆さんを学校全体で温かく迎えました。

参加した小学生は、体操着や動きやすい私服で活動に参加し、最初は少し緊張した表情も見られましたが、中学生が優しく声を掛け、ラケットの持ち方や楽器の扱い方を丁寧に教えるうちに、自然と笑顔が広がっていきました。

バドミントンではラリーが続くたびに歓声が上がり、ソフトテニスではボールを打つ楽しさを味わいながら先輩たちとの交流を深めました。吹奏楽部では実際に楽器に触れ、音が出た瞬間には驚きと喜びの表情を見せる児童も多く、音楽の魅力を体感していました。

また、中学生にとっても、小学生に分かりやすく教えたり励ましたりする経験は、自分たちの成長や責任感を実感する貴重な機会となりました。終始和やかな雰囲気の中で行われた今回の部活動体験は、小学



生が中学校生活への期待を膨らませるとともに、本校の温かな校風や先輩たちの魅力を感じてもらえる有意義な時間となりました。

※ホームページ掲載の小学生の写真は、入学前の児童であることから肖像権保護のため、AI によるイメージ加工画像を使用しています。

11 人が奏でた奇跡 ― 東京都中学生吹奏楽コンクール 金賞受賞 ―

8月6日、府中の森芸術劇場ウィーンホールで開催された第66回東京都中学生吹奏楽コンクールにおいて、本校吹奏楽部がB組金賞を受賞しました。

演奏曲は、吹奏楽のための音絵巻「鳥獣戯画」。ステージに立ったのは、わずか11人。大編成の学校が並ぶ東京都大会において、この人数で挑むことは決して容易なことではありません。一人でも音が欠ければ音楽は成り立た

ず、一人一人が主役であり、一人一人が仲間を支える存在でした。だからこそ、生徒たちはこの日のために、誰一人妥協することなく、毎日の練習を積み重ねてきました。

本番では、一音一音に思いを込め、仲間を信じ、心を一つにした演奏を披露。会場には、人数の少なさをまったく感じさせない豊かな響きが広がり、「鳥獣戯画」の世界が鮮やかに描かれていきました。審査員からは、「クラリネットソロが大変素晴らしかった」「美しい音色とフレーズ感、曲想に合った表現が見事」「少人数を感じさせないバランスの良い音色」「全員で音楽をつくり上げるチームワークが素晴らしい」など、数多くの温かい講評が寄せられました。また、「今日だけではなく、今日に至るまでの努力を感じるステキな演奏でした」という言葉は、生徒たちにとって何よりの励ましとなりました。

もちろん、講評には今後への課題も示されました。リズムの軽やかさやフレーズの流れ、響きの整理など、さらに高みを目指すための具体的なアドバイスです。しかし、それは金賞という結果の先に、さらに成長できる可能性があるという期待の表れでもあります。

金賞は、演奏した11人だけの力ではありません。日々熱心に指導に当たった顧問の先生方、支えてくださった保護者の皆様、応援してくれた全校生徒や地域の皆様、そして苦しい時も励まし合いながら歩んできた仲間たち。そのすべての思いが重なり、一つの「金賞」という輝きにつながりました。

音楽は目には見えません。しかし、人の心を動かし、努力や友情、感謝の気持ちを音に乗せて届けることができます。恩方中学校吹奏楽部が奏でた11人の音色は、まさにそのことを証明してくれました。この金賞はゴールではなく、新たなスタートです。今日の感動を胸に、恩方中学校吹奏楽部はこれからも、一人一人が輝き、聴く人の心に届く音楽を目指して歩み続けます。温かいご声援をいただいたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。



大型冷凍庫を活用した熱中症対策の試行について

今夏、本校では熱中症対策をさらに充実させるため、大型冷凍庫を導入し、運動前に身体をあらかじめ冷やす「プレクーリング」の考え方を取り入れた取組を試験的に実施しています。

夏休み中は、部活動に参加する生徒を中心に、水筒に加えて、ペットボトル入りの水・お茶・スポーツドリンクのほか、保冷剤、氷のう、冷却タオル、ネッククーラーなどの冷却用品を持参し、活動前まで冷凍庫で保管することを認めています。

活動前や休憩中に冷たい飲料を摂取したり、冷却用品を首元やわきの下などに使用したりすることで、身体にこもる熱を和らげ、深部体温の急激な上昇を抑える効果が期待できます。また、活動後にも冷却を行うことで、疲労の軽減や体調の回復にもつながります。実際に利用した生徒からは、「飲み物が最後まで冷たかった」「保冷剤で体を冷やせて楽だった」「休憩後に活動へ戻りやすかった」といった声が聞かれています。今回の試行により、飲料だけでなく、それぞれの生徒が自分に合った冷却方法を選べる環境が整いました。

一方で、衛生面や記名、保管方法、取り違え防止などのルールを守ることも重要です。今後も WBGT（暑さ指数）の確認、活動時間の短縮、こまめな休憩、水分・塩分補給と組み合わせながら、取組の効果や課題を検証してまいります。ご家庭でも、十分な睡眠や朝食、飲料や冷却用品の準備について、ご協力をお願いいたします。



【苫小牧港まつり】勇払に帰ってきた——苫小牧に刻んだ新たな一ページ

〇一泊二日で代表団が訪問

本校代表団は、植田校長、松崎学校運営協議会会長、川島学校運営協議会副会長、関教諭、生徒会副会長（会長代理）、修学旅行実行委員代表の女子生徒など計 8 名。一泊二日の日程で北海道を訪れています。

8月8日（土）、代表団は勇払に到着しました。姉妹校である勇払中学校の皆さんとの再会を果たし、交流の時間を過ごすとともに、明日のパレードに向けて「千人同心踊り」の練習にも取り組みました。今年度の北海道修学旅行で育まれた友情が、再び勇払の地でつながりました。



8月9日（日）、苫小牧で迎えた交流2日目。本校代表団は朝、勇払公民館に集合しました。

この日は、今回の訪問の大きな目的であるパレードへの参加です。公民館で「勇払千人隊」の衣装へと着替えると、生徒たちの表情にも少しずつ緊張が表れます。



○八王子市からは安間教育長が激励に

出発を前に、八王子市教育委員会の安間教育長から激励のお言葉をいただきました。

八王子から遠く離れた北海道の地で、八王子千人同心によって結ばれた歴史を受け継ぐ行事に参加する。その意味を改めて胸に刻み、生徒たちは勇払の町へと歩み出しました。そして、勇払町内のパレードが始まりました。沿道から送られる地域の皆様の温かな拍手と笑顔。その中を勇払千人隊の皆様とともに進んでいきます。



○代表団は5月に引き続き2度目の北海道訪問

生徒たちにとって、勇払は初めて訪れる場所ではありません。今年5月、3年生は北海道修学旅行でこの地を訪れました。八王子千人同心と北海道とのつながりを学び、勇払中学校の皆さんと交流しました。

あの時は「歴史を学びに来た」勇払。しかし、この日は違います。地域の皆様と同じ列に加わり、自分たちも祭りをつくる一員として、再びこの地に立っています。200年以上前、八王子から遠く蝦夷地へ渡った先人たち。その歩みから生まれた縁が、長い年月を経た今も途切れることなく続いています。そして今、その続きを歩いているのは、八王子と苫小牧の子どもたちです。



5月には歴史を「学ぶ」ために歩いた勇払の道を、8月には歴史を「受け継ぐ」一人として歩いていく。一步、また一步。生徒たちの歩みとともに、八王子と勇払を結ぶ新しい一日が始まりました。

○八王子千人同心の墓参を実施

勇払町内を進んだパレードは、やがて本校の生徒たちにとって忘れることのできない場所へとたどり着きました。八王子千人同心ゆかりのお墓です。今年5月の北海道修学旅行で、生徒たちはこの場所を訪れました。

八王子から遠く離れた蝦夷地へ渡り、この地の警備や



開拓にあたった先人たち。故郷や家族を遠く離れ、厳しい環境の中で生きた人々に思いを寄せながら、生徒たちは静かに墓前で手を合わせました。

それから、わずか約3か月。同じ生徒たちが、再び同じ場所に立ちました。しかし、この日の姿は5月とは違います。勇払千人隊の衣装を身にまとい、地域の皆様とともに、今度は墓前で踊りを披露しました。5月には、静かに手を合わせた場所。8月には、その同じ場所で踊っている。目の前の光景を見ると、200年以上という時間が一瞬につながったようにも感じられました。

○歴史を振り返り人々の縁を知る

かつて八王子からこの地へ渡った人々がいました。その歴史を学ぶため、200年以上の時を越えて八王子の中学生が勇払を訪れました。そして今、その子どもたちが地域の方々と肩を並べ、先人たちが眠る場所で舞っています。歴史とは、年号や出来事を覚えることだけではないのかもしれない。その土地に立ち、そこに生きた人々に思いを寄せ、その思いを次の世代へつないでいくこと。この日の生徒たちの姿は、まさに「生きた歴史」の中にいるようでした。



○勇払中学校の生徒との直接交流

パレード終了後は勇払公民館へ戻り、昼食をとりながら勇払中学校の生徒たちと交流しました。5月に会った仲間との再会です。

笑顔で言葉を交わす姿を見ていると、八王子と苫小牧を結んでいるものは、もはや歴史だけではありません。「また会えた」。その喜びこそが、これからの両地域を結んでいく新しい力なのだと思います。

5月に始まった修学旅行の学びは、この日、生徒たち自身が受け継ぐ物語へと変わりました。そして午後、その物語は苫小牧のまちの中心へと続いていきます。



勇払公民館で昼食をとり、勇払中学校の皆さんとの交流を終えた本校代表団は、「とまこまい港まつり」の会場へと移動しました。多くの人々でにぎわう苫小牧のまち。午前中に勇払町内を歩いた生徒たちは、再び勇払千人隊の一員としてパレードに加わりました。

○午前は勇払町、午後は苫小牧市内へ

朝、衣装に袖を通した時には緊張していた生徒たち。しかし、地域の皆様からたくさんの拍手をいただき、勇払の皆様と一緒に歩いてきたその表情には、いつしか笑顔と誇らしさが浮かんでいました。

そして、パレードはいよいよ最後の場面へ。生徒たちは苫小牧市長の前で、この日取り組んできた踊り

を披露しました。その姿を見ながら思い出されたのは、わずか3か月前の5月のことでした。

北海道修学旅行で初めて勇払を訪れ、八王子千人同心の歴史を学んだ生徒たち。墓前で静かに手を合わせ、勇払中学校の皆さんと出会いました。あの時、生徒たちは歴史を「学ぶ人」でした。

しかし、この日は違いました。勇払の皆様と同じ衣装をまとい、同じ列を歩き、同じ踊りを踊る。生徒たちはいつの間にか、歴史を「学ぶ人」から、その歴史を未来へ「つなぐ人」になっていました。



〇200年以上続く千人同士が結んだ絆

200年以上前、八王子から北海道へ渡った先人たち。その歩みを大切に守り続けてくださった勇払の皆様。そして、その歴史によって出会った恩方中学校と勇払中学校の子どもたち。歴史とは、過去に置いてくるものではありません。誰かが大切に受け取り、次の誰かへ手渡すことで、時代を越えて生きていくものです。

最後の踊りを終えた生徒たちに送られた拍手は、この日の頑張りだけに向けられたものではなく、八王子と苫小牧が長い年月をかけて育んできた交流そのものへの拍手のようにも感じられました。

温かく迎えてくださった苫小牧市、勇払地域、勇払中学校をはじめ、今回の交流を支えてくださったすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

八王子と苫小牧を結ぶ物語は、ここで終わりではありません。この日、生徒たちが受け取った「つながり」という絆は、きっと次の世代へと手渡されていきます。200年以上前に結ばれた縁の続きを、今度は私たちが未来へ。恩方中学校と勇払の交流は、これからも続いていきます。



【注意喚起】自転車の盗難・無断使用に注意してください

最近、本校生徒の自転車について、遊びに出かけた際や学習塾に通っている時間などに盗難・紛失するケースが増えています。特に、次のような状況で自転車がなくなる事例が見られます。

- 鍵をかけずに自転車から離れた
- イーアス高尾や河原宿大橋バス停付近など、多くの人が利用する場所に置いていた

- 学習塾の前に置いていた
- コンビニエンスストアを利用する短い時間だけ置いていた
- 恩方市民センターなどの公共施設に置いていた



「少しの時間だから大丈夫」「すぐ戻るから大丈夫」という油断が、盗難につながることがあります。自転車から離れる際には、短時間であっても必ず鍵をかけてください。可能であれば、備え付けの鍵だけでなくワイヤーロック等を併用する「ツーロック」も有効です。

○本校の登録シールがあっても、学校が自転車を回収することはできません

本校生徒が使用している自転車には、防犯登録に加えて学校への自転車登録がされているものが多くあります。そのため、地域の方や関係機関から「恩方中学校の登録がある自転車が置かれている」と学校へ連絡をいただくことがあります。

しかし、学校の登録は、通学や校内への駐輪を許可するためのものであり、自転車の所有権が学校にあるわけではありません。所有者の許可なく教職員が勝手に移動・回収することはできません。そのため、学校へ「撤去してほしい」「引き取りに来てほしい」とご連絡をいただいても、学校が自由に対応できない場合があります。ご理解をお願いいたします。

○盗まれたときは、あきらめずに警察へ相談してください

ここ1年ほど、恩方地域をはじめとする学校外の場所に置いていた自転車がなくなり、その後、本校へ連絡が入るケースが増加傾向にあります。

自転車がなくなった際、「もう戻ってこないだろう」とあきらめ、そのままにしてしまうケースもあります。しかし、盗難が疑われる場合には、必ず警察へ相談してください。

一件一件の相談や届出が、同様の被害の把握や今後の犯罪抑止にもつながります。学校としても、地域の中で同じような被害を繰り返さないために、ご家庭の協力をお願いいたします。

○「放置されているから乗ってもよい」は絶対にありません

一方で、生徒自身が加害者になってしまうことも絶対に避けなければなりません。

過去には夏休み中、放置されているように見えた他人の自転車に生徒が乗り、警察が対応する事案もありました。

道端や駐輪場などに長時間置かれている自転車であっても、他人の自転車を所有者の許可なく勝手に持ち去ったり使用したりしてはいけません。これは法律上「占有物離脱横領罪」にあたる可能性があります。参考として、刑法では次のように定められています。

刑法第 254 条（占有離脱物横領）

遺失物、漂流物その他占有を離れた他人の物を横領した者は、1 年以下の懲役又は 10 万円以下の罰金若しくは科料に処する。

「ちょっと借りるだけ」「誰も使っていないと思った」「あとで返せばいい」という軽い気持ちでは済みません。警察による厳しい対応を受けることにもなり、その後の生活にも大きな影響を及ぼしかねません。

「自分の自転車には必ず鍵をかける」

「盗まれたら警察に相談する」

「他人の自転車には絶対に乗らない」

この3点について、学校でも改めて指導してまいります。大切な自転車と、何より生徒自身の未来を守るため、ご家庭でもぜひ話題にさせていただきますようお願いいたします。

「浅いから大丈夫」は通用しません — 恩方川での遊泳・飛び込みは大変危険です

夏休み前後から、地域の方々より、恩方川で本校生徒が子どもたちだけで泳いでいる、川へ飛び込んでいるなどの情報が相次いで学校へ寄せられています。

恩方川は私たちにとって身近で、地域の豊かな自然を象徴する大切な川です。しかし、「身近な川＝安全な川」ではありません。恩方川では、過去に尊い命が失われる水難事故も発生しています。

そして今、多摩川でも水難事故が相次いでいます。府中市では友人と川遊びをしていた中学3年生が流され、意識不明の重体となる事故が発生しました。また、昭島市では友人と釣りをしていた50代の男性が川で溺れ、亡くなる事故が発生しています。

「自分たちは中学生だから大丈夫」「泳げるから大丈夫」「水が浅いから大丈夫」——その考えが最も危険です。

国土交通省などの資料でも、川では水深が膝下程度であっても、流れや深み、増水などによって溺水する危険があるとされています。また、川の流れから受ける力は想像以上に強く、大人の膝程度の浅さでもバランスを崩して流されることがあり

その川遊び、 命の危険 があります。

～恩方川での遊泳・飛び込みは絶対にやめてください～

夏休み前後から
恩方川で本校生徒が
子どもたちだけで泳いでいる、
川に飛び込んでいるなどの
通報が相次いでいます。

恩方川では、かつてに死亡事故が発生しています。

8月16日 府中市（多摩川）	8月11日 昭島市（多摩川）
友人と川遊びをしていた 中学3年生の男子生徒が 流され、意識不明の 重体となっています。	友人と釣りをしていた 50代の男性が溺れ、死亡。 落とした釣り竿を拾うために 川に入ったとみられています。

最近、多摩川で水難事故が相次いでいます。

水深が浅くても、溺れる危険があります！

- 国土交通省や海上保安庁の資料でも、大人の膝程度の浅さでも、流れによってバランスを崩し、簡単に流されることがあると注意喚起されています。
- 川の流力は、見た目以上に強く、足元が滑ったり、急に深くなったりして、溺れる危険があります。
- 上流の雨により、短時間で増水することもあります。

命を守るために、必ず守ってください。

子どもたちだけで川に入らない！	泳ぐ・飛び込む行為は絶対にしない！	川に入る活動をする場合はライフジャケットを正しく着用！	友達が流されたら、飛び込まずに大人に助けを求め、すぐに119番通報！
 必ず大人と一緒に。	 見えない深みや岩があり、大変危険です。	 自分の命を守る最も有効な手段です。	 自分まで川に入るのは絶対にやめてください。

川は、私たちにとってかけがえのない自然です。
「自分だけは大丈夫」と思わず、自分の命、友達の命を守る行動を！

みんなが安全に、楽しい夏休みを過ごせるようにしましょう。

恩方中学校

ます。

特に飛び込みは、見た目だけでは分からない水深や川底の岩などによって、頭や首を強く打つ危険もあります。一度転倒して流れに巻き込まれれば、浅い川でも顔を水面から出し続けられるとは限りません。

川は、深さだけで危険性を判断することはできません。

大人でも溺れる。浅くても溺れる。泳げても溺れる。

恩方川をはじめ、川で子どもたちだけで泳いだり、橋や岩などから飛び込んだりすることは絶対にやめてください。川に入る活動をする場合には、必ず大人の管理のもとで、ライフジャケットを正しく着用するなど、安全を確保してください。

夏休みも残りわずかです。ほんの一瞬の判断で、自分自身や友達の未来を失うことがないように、「自分だけは大丈夫」と考えず、命を守る行動を最優先にしてください。親の時代では川遊びは当たり前との声が寄せられますが、今の小中学校では水泳の授業は片手で数えるくらいしか行っていません。また、現在、中学校に通う生徒は小学生時代に新型コロナのため水泳の授業がなかった、または削減されていて泳げない生徒が大変多くなっています。そのことも十分考慮してください。

夏休み基礎教室 — 静かな教室に広がる、それぞれの学び —

夏休みも終盤を迎える中、本校では「夏休み基礎教室」を実施しています。教室をのぞいてみると、そこにあるのは普段の授業とは少し違った、静かで集中した学びの時間です。

1・2年生では、夏休みの宿題に取り組む生徒が多く見られました。分からないところを教科書や資料で調べたり、先生からアドバイスを受けたりしながら、一つ一つ課題を進めています。3年生は、夏休みの宿題に加え、高校受験を意識した学習に取り組む姿も多く見られました。問題集を繰り返し解いたり、自分の苦手な分野を重点的に復習したりと、それぞれが自分に必要な学習を考えて取り組んでいます。



何より印象的なのは、教室の落ち着いた雰囲気です。私語はほとんどなく、聞こえてくるのは鉛筆を走らせる音やページをめくる音。誰かに言われたからではなく、自分の課題に向き合おうとする生徒たちの姿から、夏休みの間にも着実な成長を感じます。

7月に実施した基礎教室では、前半を学校運営協議会が主体となって支え、後半は教員を中心に実施しました。今回も多くの教員が参加し、生徒一人一人の学習状況を見ながら、質問に答えたり、学習方法をアドバイスしたりしています。夏休みは、自分で時間を管理し、自分で学びを進める期間でもあります。この基礎教室で積み重ねた一時間、一問、一ページが、2学期の学習、そして3年生にとってはこれから本格化する進路実現への確かな一歩につながることを期待しています。

二学期がスタートしました！ ～それぞれの一步を大切に～



8月25日（火）、二学期の始業式を行いました。長い夏休みを終え、体育館には久しぶりに全校生徒が集まり、学校に生徒たちの元気な姿が戻ってきました。

始業式では、まず全校生徒で校歌を斉唱しました。体育館に響く久しぶりの校歌とともに、恩方中学校の二学期がスタートしました。続いて、各学年の代表生徒が二学期に向

けた決意や目標を発表しました。

1 年生代表の池田穂花さん

2 年生代表の坂村虹光さん

3 年生代表の小影慶士さん

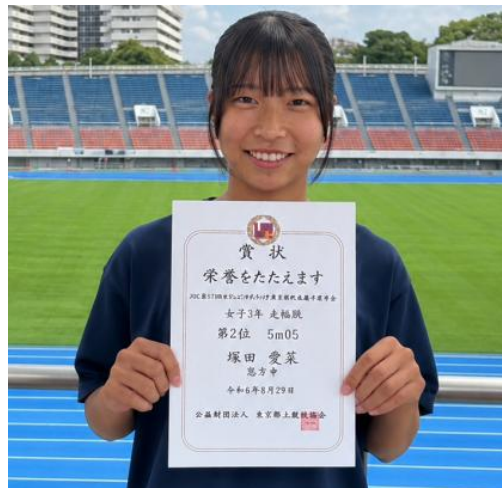
それぞれ、一学期を振り返りながら、学習や学校生活、これからの行事などについて、それぞれの目標や思いを自分の言葉で堂々と伝えました。全校生徒の前で発表する姿からは、新しい学期に向けた前向きな決意が感じられました。

その後、校長先生から二学期の学校生活に向けた話があり、生活指導主任からは、学校生活を送る上で大切にしてほしいことについて話がありました。二学期には体育祭をはじめ、授業や部活動、生徒会活動など、仲間とともに挑戦し、成長できる多くの機会があります。三年生にとっては、自分の進路と向き合う大切な時期でもあります。一方で、新学期を楽しみにしていた人ばかりではありません。「学校に行くのがしんどい」「誰かと関わることに疲れてしまう」。そんな気持ちで今日を迎えた人もいるでしょう。無理に周囲と同じペースで進む必要はありません。困ったときには先生や周りの大人を頼りながら、自分にできる一歩から始めてください。大きな挑戦も、小さな一歩も、どちらも大切な成長です。一人一人が自分らしく、新しい可能性を見つけられる二学期にしていきたいと思います。

【陸上部】それぞれの場所で挑んだ夏の大会

8月29日（土）・30日（日）、駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場において、「第38回東京ジュニア陸上競技大会・JOC ジュニアオリンピックカップ第57回 U16 陸上競技大会東京都代表選手選考会」が開催され、本校陸上部の選手たちが出場しました。

1 日目は、女子3年走幅跳で塚田愛菜さん（3年）が5m05（+1.1）を記録し、見事2位に入賞しました。また、男子共通走高跳では粕谷圭さん（3年）が1m50、男子共通ジャバリックスローでは堀空さん（3年）が29m15を記録しました。2

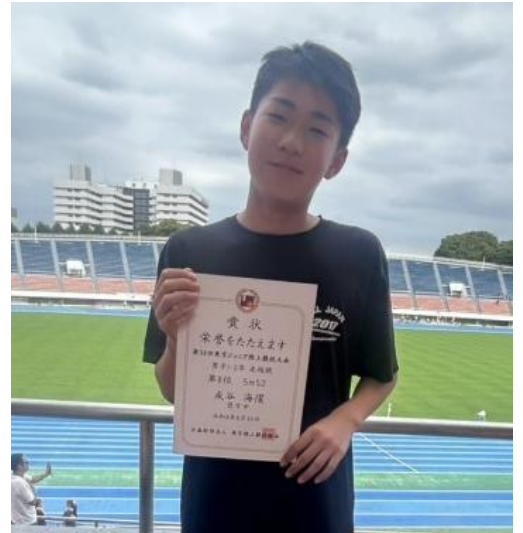


日目には、男子 1・2 年走幅跳で成谷海慍さん（2 年）が 5m52（+1.6）を跳び、8 位入賞。男子 U16 代表選考ジャベリックスローでは高橋颯太さん（2 年）が 24m92、女子 1 年 800m では西原なずなさん（1 年）が 2 分 51 秒 49 を記録しました。

8 位に入賞した成谷さんですが、決勝では予選の記録を超えることができず、競技後には悔し涙を流す姿もありました。しかし、どの跳躍でもこれまで以上の高い水準の記録を維持しており、確かな成長を感じさせる大会となりました。この悔しさも、きっと次の大きな飛躍につながっていくはずです。

また、2 位入賞を果たした塚田さんは、競技終了後すぐに富士森公園陸上競技場へ移動し、同日に行われた「八王子市中学校陸上競技記録会」にも出場。リレーでは第 4 走者を務めるなど、女子部長としてタフな活躍を見せてくれました。八王子市中学校陸上競技記録会にも多くの部員が出場し、それぞれが自分の競技に全力で挑戦しました。

自己ベストを更新した選手も多く、競技を終えた後には仲間へ声援を送る姿も見られました。雨の降る厳しいコンディションの中でも、選手たちは最後までよく頑張りました。また、顧問の小林先生、菅野先生も雨の中、審判として大会運営を支えました。入賞という結果だけでなく、悔し涙も、自己ベストも、仲間への声援も、すべてが次への力になります。



【全6回】ブルーベリー収穫活動が終了

今年度取り組んできた STEAM 教育の一環として行ってきた、ブルーベリーの草刈り・収穫活動も、いよいよ最終回を迎えました。第 6 回となる今回は 3 名の生徒が参加し、これをもって全 6 回の収穫活動が終了しました。

振り返ってみると、決して予定通りに進んだ活動ばかりではありませんでした。農作物を相手にする以上、人間の都合だけで活動することはできません。天候に左右され、予定していた作業が思うように進まないこともありました。

また、夏場には雑草が驚くほどの勢いで伸び、収穫の前には草刈りなどの環境整備も必要になります。暑さの厳しい中での作業は、生徒たちにとっても決して楽なものではありませんでした。一方、そうした苦労を重ねたからこそ、実際にブルーベリーが実り、自分たちの手で収穫できたときの喜びは大きなものになりました。回を重ねるにつれて実の状態にも変化が見られ、第 5 回では、それまでの酸味を残しながらも「今までで一番甘い」と感じられる実を味わうこともできました。

普段、私たちはスーパーやお店に並んでいる野菜や果物を、完成した「商品」として目にしています。しかし、その一つ一つが店頭に並ぶまでには、育てる人が天候を気に掛け、草を刈り、肥料を与え、状態



を確認し、収穫の時期を見極めるなど、数多くの作業があります。

今回の活動は、そうした農業の大変さを実体験として知る機会にもなりました。同時に、生徒たちには「自分たちが収穫したブルーベリーには、どれくらいの価値があるのだろう」という新しい視点も生まれてきます。同じブルーベリーでも、大きさや色、熟し方、甘さなどは一粒一粒違います。収穫すれば、そのまますべてが商品になるわけではありません。消費者に選んでもらうためには、品質をそろえ、適切に保存し、届けるところまで考える必要があります。



しかし、活動はここで終わりではありません。むしろ、ここからが次の学びのスタートです。収穫したブルーベリーをどのように生かすのか。本校が目指しているのは、ブルーベリーを収穫して「楽しかった」「おいしかった」で終わる活動ではありません。これまでの経験を振り返り、そこで見つかった課題や疑問を次の学びにつなげていくことこそ、この取組の大切な目的です。

実際に農園で活動してみると、始める前には想像していなかった多くの課題が見えてきました。天候によって活動予定が変わること、暑い時期にも草刈りなどの作業が必要になること、実によって熟し方や大きさ、甘さが違うこと、そして収穫できる時期にも限りがあること。教室で農業について調べるだけでは実感することのできない「現実」がそこにはありました。

だからこそ大切なのが、「なぜ、うまくいかなかったのか」「どうすればもっとよくできるのか」と考えることです。失敗や反省を単なるマイナスとして終わらせるのではなく、そこから課題を発見し、解決方法を考え、実際に試してみる。この積み重ねが探究的な学びにつながります。



そして今後は、収穫したブルーベリーの加工や販売にも取り組んでいく予定です。例えば、そのまま販売するだけでなく、加工することで新たな価値を生み出すことができるかもしれません。どのような商品なら手に取ってもらえるのか。価格はいくらが適切なのか。原材料だけでなく、容器や包装などにはどれくらい費用がかかるのか。誰に、

どこで、どのように販売するのか。そして商品の魅力をどのように伝えるのか。考え始めれば、次々と新しい課題が生まれてきます。

全6回の収穫活動で得た最大の成果は、収穫したブルーベリーの量だけではありません。実際に活動したからこそ、「もっとこうすればよかった」「これはなぜだろう」「次はこうしてみたい」という疑問や反省が生まれたこと自体が、大きな学びの成果です。体験から気づき、気づきから問いを生み、問いから課題を見つけ、その解決に挑戦する。ブルーベリーを通して始まった学びは、これから「加工」「商品化」「販売」へと広がっていきます。生徒たちがどのようなアイデアを出し、どのような答えを見つけていくのか。収穫を終えた今、ブルーベリーをめぐる探究活動は、いよいよ次のステージへ進みます。

TOKYO MX「堀潤 Live Junction」で本校の獣害対策を紹介 ～生徒の命を守る実践的なクマ対策～

8月12日（水）、TOKYO MXの報道・情報番組「堀潤 Live Junction」において、本校の獣害対策の取組が紹介されました。これまで報道番組の編成変更などにより放送日が延期となり、本校ホームページでも何度か放送予定をお知らせしてきましたが、このたび無事に放送され、3万人以上の多くの皆様に本校の取組をご覧いただくことができました。

今回取り上げられたのは、番組内で

TOKYO MXの大林記者がニュースの背景や現場を「深掘りするコーナー」です。放送では、まず東京都西部におけるクマの目撃状況を地図とともに紹介。八王子市内でも4月29日、8月1日、8日と目撃情報が相次いでいることから、身近な地域における現実的な課題としてクマ対策が取り上げられました。

続いて、八王子市が6月補正予算でクマ対策に約1500万円を計上し、撃退スプレー約700本を市立小・中学校など市内関係各所に配布するなど、対策を強化していることが紹介されました。そのうえで、クマの出没現場に約2キロにある「山に囲まれた中学校における部活動のクマ訓練」として、本校の取組が詳しく放送されました。

番組では、山々に囲まれた恩方中学校の校舎や周辺環境、本校から約200メートル離れた恩方川沿いの多目的広場を取材。ソフトテニス部が日頃活動するコートと川との間を隔てる柵なども映し出され、豊かな自然に恵まれている一方で、野生動物の侵入を想定した安全対策が必要であることが伝えられました。本校副校長へのインタビューも放送され、学校が感じている課題や安全確保に向けた考えについて説明しました。

さらに、ソフトテニス部が実施したクマとの遭遇を想定した避難訓練にも密着。専門家の監修のもと、クマ役がコート付近に現れるという実践的な状況を設定し、生徒たちがどのように危険を察知し、安全を確保するのかを確認の様子が紹介されました。

今回の「堀潤 Live Junction」での放送は、単にクマへの警戒を呼びかけるだけではなく、自然豊かな地域にある学校が、生徒の命を守るために現実の課題とどう向き合っているのかを丁寧に伝えていただく内容となりました。

長期間にわたり取材を重ねてくださったTOKYO MXの大林記者をはじめとする報道関係の皆様、訓練にご協力いただいた専門家・関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本校では今回の取組を一過性のものとせず、今後も八王子市や地域、関係機関と連携しながら、多目的広場の安全対策強化、自然と共生する恩方だからこそ必要となる安全教育と獣害対策を進めてまいります。

※8月15日より東京MXテレビニュース画面で放送内容を確認いただけます。本校ホームページにある公式YouTubeチャンネルからも視聴可能です。

